

計測誤差の要因と対策

目次

Agenda

1) 要因と対処法

- a) 運用ベース要因
- b) スマートマット要因
- c) その他

2) 対処が難しいケース

要因と対処法

計測誤差の要因は、大きく分けて3つ

01

運用ベース
要因

02

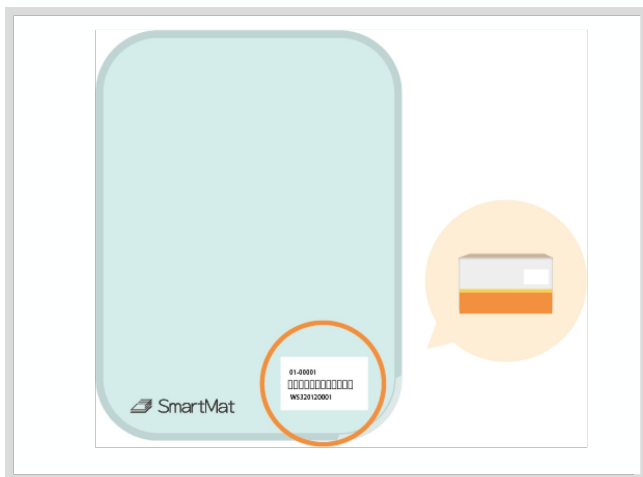
スマートマット
要因

03

その他の要因

01:運用ベースでの要因

マットの置き方が原因の場合、正しい状態にし、マットのボタンを1回押して再計測を行います



異なるマットに商品載せていないか？

置き間違いや、一時的に別のモノを載せていたなど。マットと登録商品が一致しているか、お確かめください



商品の重さがマット以外にかかっていないか？

複数の商品がマットに載っていたり、壁などに商品の重さが分散していないかご確認ください。

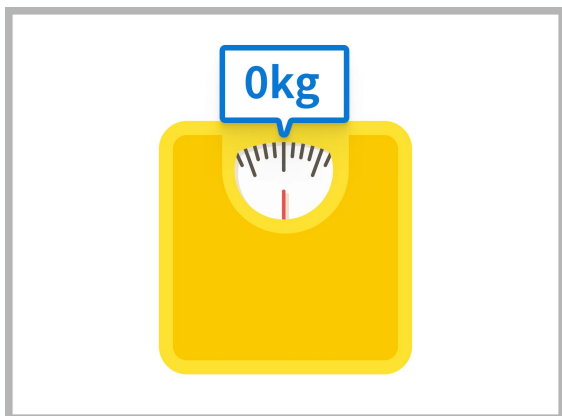


マットの脚が4点接地しているか？

スマートマットは、[適切な環境](#)で設置されていますか？
今一度ご確認ください。

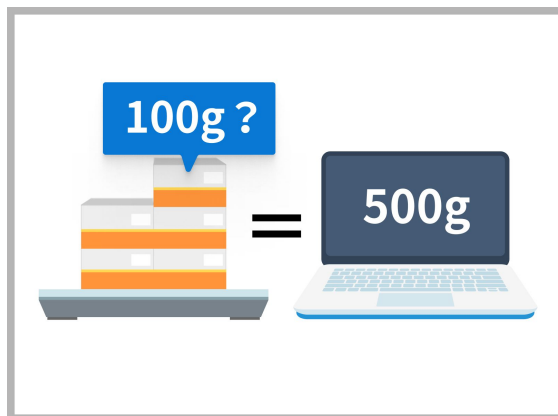
02:スマートマットが要因の場合

マット自体の設定や、仕様が要因の場合



0kg補正ミス

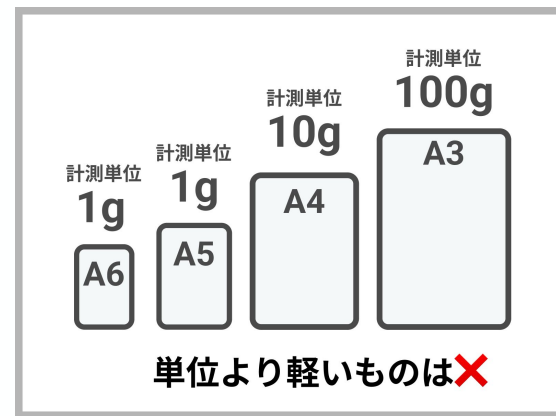
測定のスタートが0kgになっていない場合があります。再度 [0kg補正](#) を実施してください。



登録時の重量設定ミス

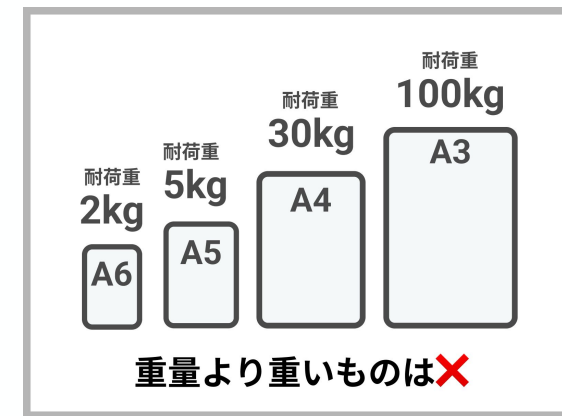
商品やパレットの重量、入数が正しいかをご確認ください。

1個の重さが軽量の場合、10個の重さを計測し、1個あたりの重量を算出する方法を推奨



計測単位が不適切

商品の重さが、マットの計測単位より軽い場合、マットサイズ、または管理商品を変更してください。



耐荷重オーバー

商品の重さが、マットの耐荷重をオーバーしていませんか？ マットサイズ、管理商品を変更または、[マルチマット](#)をご検討ください。

03: その他の要因

スマートマットクラウドでの測定は正しい上で、突合する棚卸データとの比較時に不整合が発生するケースがありますのでご注意ください

データの取得タイミングのズレ

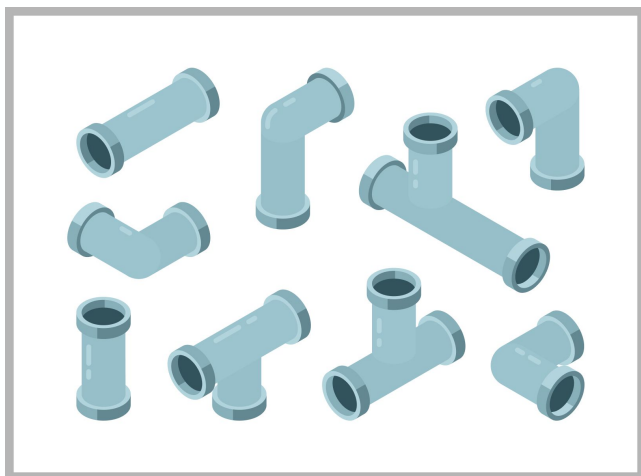
マットの通信時間より前に、実在庫の確認をした場合に、ズレが生じる場合がございます。実在庫を確認した時間が、マットの計測時間より前の場合は特に注意が必要です。

棚卸データ自体に間違いがある

棚卸しデータのカウントミス、マットに載っていない在庫をカウントしてしまうなどのケースでご連絡いただく場合がございます。お問い合わせの前に今一度ご確認いただくようお願い申し上げます。

対応が難しいケース

商品重量が安定しないケース



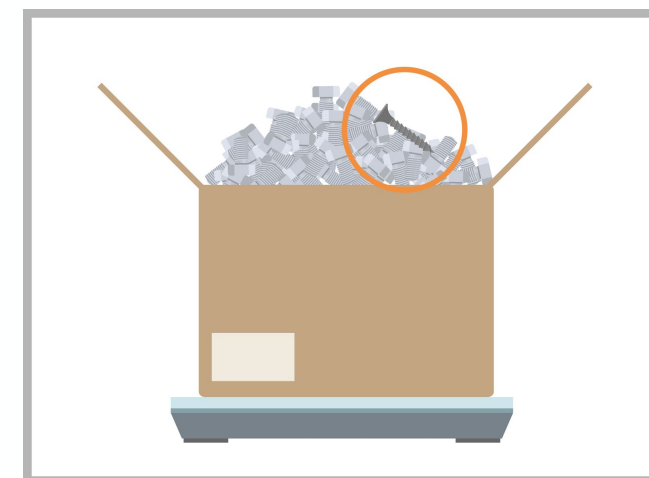
管理商品の重量にバラツキがある

商品の重さに個体差があると、誤差の原因となります。この場合平均重量をとり誤差を最小限に抑えることは可能です。



納品の度に、梱包材や緩衝材の重量や入数が変わる

仕入先様と調整、または、納品時に梱包材を取り除く運用にするなどのご対応をお願いしております。



入れ間違いなど、商品に予期せぬ異物が混入

根本の解消はスマートマットでは対処が難しいため、日々の運用で入れ間違い防止などの取り組みをお願いいたします。

— マットの仕様上、対処不可になるケース

サイズ	最大計測誤差
A3	$\pm 100\text{g} + 1.0\%$
A4	$\pm 10\text{g} + 0.5\%$
A5 / A6	$\pm 1\text{g} + 0.15\%$



スマートマットの仕様上、発生しうる誤差

[スマートマットの仕様](#)に基づき、計測重量と実際の重量とで誤差が発生します。マルチマットのように台数が増えると計測誤差も増えるので注意してください。

環境依存で発生する急激な温度変化、湿度、振動など

冷蔵/冷凍庫内、地面が濡れている場所、ホコリ・砂塵が多い場所など、誤差の原因になる場合がございます。[設置環境](#)の再検討をお願いします。